

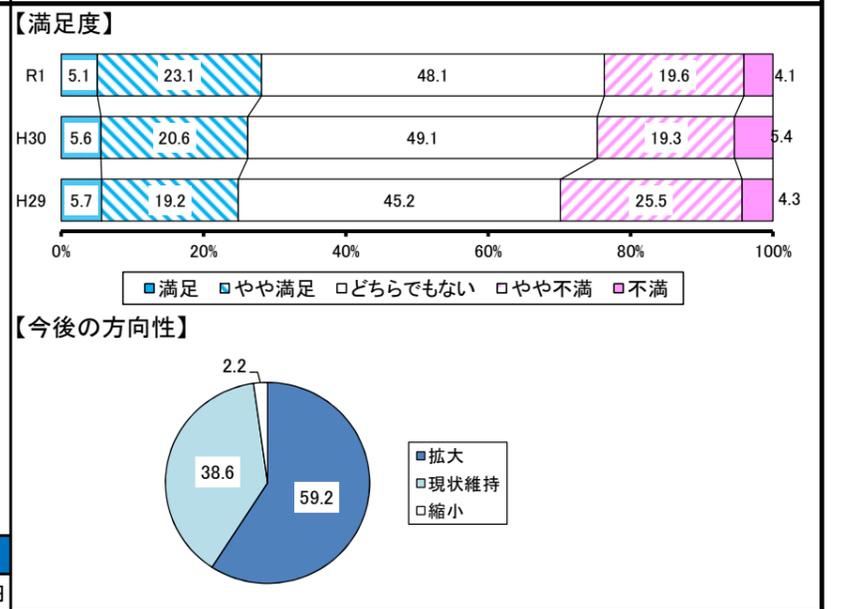
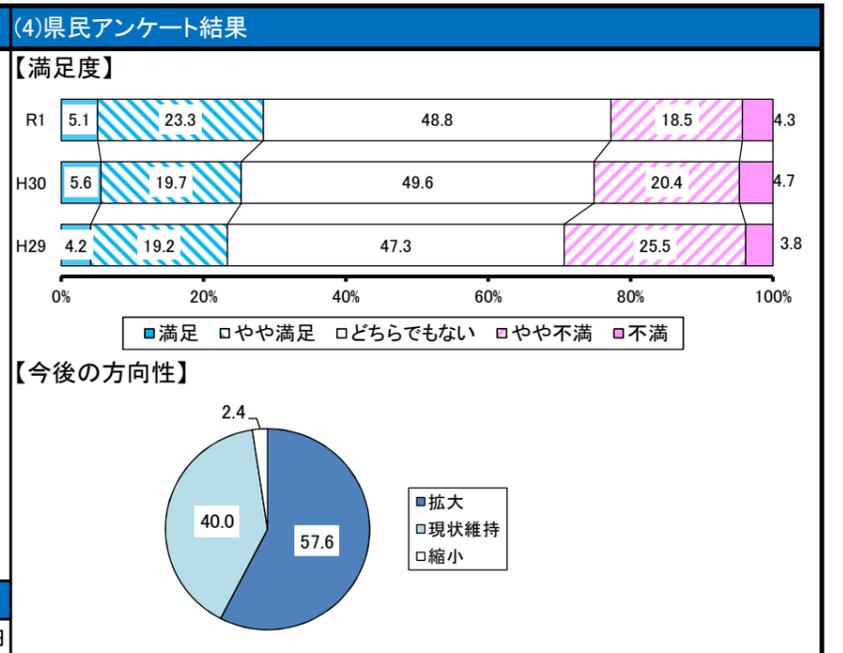
【取組みの方向性3】次代を担う力強い地域産業の創造 ～地域の活力と雇用を再生する～

【施策10】地域資源を活かす観光産業の革新・成長

(1)現状と課題		(2)概要				
<p>熊本地震によって、県民の誇りである熊本城や阿蘇地域をはじめとする観光資源や旅館・ホテル等の被害が発生したほか、直接的な被害が発生していない地域においても風評被害が発生しています。このため、被災した観光資源等の再生に向けた早急な対応のほか、県内の様々な観光資源を今まで以上に効果的に活用することが必要です。</p> <p>国際スポーツ大会の開催等によりインバウンド需要の拡大が見込まれることから、この機会を確実に捉える必要があります。また、人口減少による地域経済の縮小が懸念される中、本県の自然や歴史・文化等の豊かな地域資源を最大限に活かし、より多くの県内消費を生み出すなど観光産業を、地域を支える“総合産業”として確立し、地域に雇用と活力を創っていくことが必要です。</p>		<p>被災したホテル・旅館等の復旧や高付加価値化に向けた支援、風評被害防止のための情報発信、旅行商品の造成などに取り組むとともに、民間と共同でマーケティング、ブランディング、プロモーションなどを行う「くまもと版DMO」の取組みによる滞在型観光の更なる推進を図ります。</p> <p>また、国際スポーツ大会の開催等によるインバウンドの需要拡大に向け、おもてなし力の向上や受入環境整備を進めます。</p> <p>さらに、熊本城の復元過程を活用したツアー等により新たな誘客の促進やリピーターの確保に取り組むとともに、自然や歴史・文化等の地域資源を活かした取組みや九州各県も含めた地域間連携等によって、本県観光の新たな魅力を創造します。</p>				
★重要業績評価指標(KPI)		策定時	H28	H29	H30	目標値
施策10-1	i 被災した観光サービス施設の復旧事業の進捗率	—	0.5 <0.5%>	44.6 <44.6%>	81.1 <81.1%>	100 [%]
	ii 延べ宿泊者数 【施策5-③、施策10-②と同一】	720 (H27)	677 <84.6%>	724 <90.5%>	805 達成	800 [万人/年]
	iii 延べ外国人宿泊者数 【施策5-③、施策10-②と同一】	64 (H27)	49 <40.8%>	74 <61.7%>	101 <84.2%>	120 [万人/年]
施策10-2	i 延べ宿泊者数 【施策5-③、施策10-①と同一】	720 (H27)	677 <84.6%>	724 <90.5%>	805 達成	800 [万人/年]
	ii 延べ外国人宿泊者数 【施策5-③、施策10-①と同一】	64 (H27)	49 <40.8%>	74 <61.7%>	101 <84.2%>	120 [万人/年]
	iii 地域を元気にする取組みを支援する地域づくりチャレンジ推進事業の実施件数	85 (H27)	144 <28.8%>	212 <42.4%>	264 <52.8%>	500 [件/5年]

(3)施策体系					
H30	事業数	決算額	R1	事業数	予算額
	12	5,591,021千円	1	12	5,659,951千円

(3)施策体系					
H30	事業数	決算額	R1	事業数	予算額
	16	1,114,915千円	1	17	1,130,743千円



【施策10】 地域資源を活かす観光産業の革新・成長

No. (5)平成30年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)当該年度を含む今後の方向性
<p>施策10   ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災したホテル・旅館・温泉施設等の復旧等を支援するため、384件分(交付申請件数、H28～30)のグループ補助金を認定。また、客室数を減らし、グレードが高く広い客室への変更等、復旧と併せて付加価値を高める新分野事業を31件支援</li> <li>阿蘇アクセスマップを道路の復旧状況に応じ改訂し、県内外で広く配布するなど正確な情報を発信。また、観光事業者等と連携し、阿蘇地域を周遊するルートシャトルや乗馬体験プラン等、着地型旅行商品91コースの開発を支援</li> <li>県等が出資するくまもとDMCに対する運営支援を通じて、県内各地の着地型旅行商品及び県産品を販売する「ツアープラザKAMITORI」を開設。また、DMO等を対象に、データ収集・分析の手法や旅行商品への活用方法を学ぶワークショップを開催</li> <li>観光事業経営者セミナーを開催し、環境変化に対応したマーケティングやPR手法等のノウハウ取得を支援。また、阿蘇市の地域団体による、女性をターゲットとしたブランド「阿蘇ジェンヌ」の商品開発や販路開拓等を支援</li> <li>インハウンドの早期回復・拡大に向け、現地セールス等を強化。また、受入環境整備に係るセミナーを県内6カ所で開催。148施設に「くまもとフリーWi-Fi」の整備を支援するとともに、多言語コールセンターの運用を開始し、2,500件以上を対応</li> <li>国道57号北側復旧ルートや国道325号阿蘇大橋ルート、県道俵山ルートの復旧が着実に進捗。また、主要観光地への道路整備では、九州中央自動車道の小池高山IC～山都中島西IC間、南九州西回り自動車道の津奈木IC～水俣IC間や熊本天草幹線道路の三角大矢野道路が開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通インフラ整備等の影響により復旧が遅れているホテル・旅館・温泉施設等の早期復旧のために、グループ補助金による支援が必要</li> <li>未だ道路が復旧途上であり熊本に行くのは難しいと考えている県外の方も多く、国内客の観光客数が震災前の水準に戻っていない状況</li> <li>観光産業の再生のため、マーケティング等に基づく観光戦略の下、その中核を担うDMCの自立化が必要。また、滞在型観光の推進のため観光拠点の整備や受入態勢づくりが課題</li> <li>客単価の向上や宿泊日数の増加を図る取組みを進めるため、観光客のニーズ等に合った取組みを行う事業者や地域の掘り起こしが必要</li> <li>九州各県に比べ外国人宿泊者数の伸び率が低い状況にあり、宿泊・飲食・観光施設の多言語対応やキャッシュレス決済の推進、「くまもとフリーWi-Fi」の整備箇所拡大等受入環境の整備が必要</li> <li>代替道路では工事車両等の交通量増加に伴い舗装に激しい損傷が発生。また、本渡道路については、用地取得の円滑な推進が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ補助金の活用により、施設の復旧と新分野事業による高付加価値化等、機能向上を支援</li> <li>一日も早い旅行需要の回復に向け、引き続きアクセス等の正確な情報を発信するとともに、デスティネーションキャンペーン等により県内各地に効果を波及できるよう着地型旅行商品の開発・PRを実施</li> <li>DMO等と連携し、県内各地の様々な観光資源を活用し、観光客のニーズに応じた滞在型観光等を推進する。また、着地型旅行商品の造成や受け入れ態勢の充実を図るため、予約受付や催行を支援する地域の体制を整備</li> <li>観光客のニーズに合わせた宿泊施設の機能向上等や、各地域の特性や資源を磨き上げる取組みを支援し、客単価の向上や宿泊日数の増加を促進。また、雇用環境改善等を含む経営の見直しに取り組み事業者を支援</li> <li>アジアに加え欧米豪のメディアやインフルエンサーを活用した情報発信を強化。また、デジタルマーケティングによるターゲットを絞った効果的なPRを実施するとともに、多言語コールセンター運営、キャッシュレス決済の推進、「くまもとフリーWi-Fi」の更なる整備など受入環境整備を推進</li> <li>代替道路の安全確保を図るとともに、1日も早い復旧に向け、国に代行工事の早期完了を要望。また、本渡道路については用地取得及び橋梁工を推進し、国道3号及び国道57号の渋滞解消に向けては通行量を分散する幹線道路等の整備を促進</li> </ul>
<p>施策10   ②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>益城町と連携し防災・減災旅行プログラム「益城町が学んだ教訓～震度7×2」を造成し、県外高校生約150人を受入。また、インハウンド誘客に向け、日々変わりゆく熊本城の見どころを多言語(日・英・中・韓)で紹介する熊本城音声ガイドサービスを作成</li> <li>西原村の地域団体による農業資源を活用した農業体験等の取組みを支援。また、「食」で観光客を呼び込む熊本グルメツーリズムとして、国内に5台しかないレストランバスを県内7コース運行</li> <li>阿蘇ロックフェスティバルなどの大型コンサート、第70回日本ハンドボール選手権大会などのスポーツイベント等を誘致し、県内外から多くの誘客に成功。また、映画「キングダム」、「るろうに剣心」等5件の映像作品制作を誘致</li> <li>「くまもと国際マンガCAMP」(高森町)など外部人材の活用による地域資源を活かした交流促進の取組みを支援。また、「道の駅」の集客力等の向上に向け、先駆的な取組事例紹介等を行う会議を実施</li> <li>外国人旅行者の集客を図るため、東京都、九州各県及び九州観光推進機構等と連携し、空港や駅等での共同広告や、海外の旅行会社等に県内を視察してもらうファムツアーを実施。また、現地商談会等により九州の認知度を向上</li> <li>肥薩おれんじ鉄道は、沿線市町等と連携し、クルーズ船観光客を対象とするツアーの実施等により利用を促進。また、天草エアラインはJACとの機材整備に係る管理受委託の開始により整備期間中の欠航が大幅に減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道57号や阿蘇大橋等が復旧中である阿蘇地域への観光客が地震前の水準まで回復していないため、地域との連携やプログラムのセールス強化等による誘客促進が必要</li> <li>更なる誘客のため、着地型体験プログラムの磨き上げや、民間事業者による地域資源を活用した新たな旅行商品造成の支援が必要</li> <li>大型コンサート、スポーツ大会の誘致にあたっては、公共交通機関が少なく、また駐車場が十分ではないため、会場へのアクセスが不便であることが課題</li> <li>地域の特性を活かした取組みの推進には、地域資源の発見や更なる磨き上げ、事業の掘り起こし等が必要</li> <li>全国の外国人観光客に占める九州のシェアは、東アジアが中心であるが、今後更に増加する訪日客の取り込みのため、東南アジア及び欧米豪からの誘客に向けて、オール九州での効果的なPRが必要</li> <li>肥薩おれんじ鉄道は、誘客促進に向け沿線市町等との連携強化が必要。天草エアラインは、乗員不足や、1機での運航のため機材整備・乗員訓練に伴う運休が多発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿蘇を周遊する仕組みづくりのために、阿蘇広域観光連盟等と連携し、二次交通や決済環境等を整備。また、熊本地震から防災を学ぶ教育旅行は、ガイド育成や県内4市町村と連携してブラッシュアップや誘致セールスを推進</li> <li>交流人口拡大や観光消費額の増加を目指し、地元観光関係者の旅行商品等の磨き上げやその販売を支援するとともに、新たな旅行商品の開発等、民間事業者による地域資源を活かした取組みを支援</li> <li>大型コンサート等の主催者に移送計画等のノウハウを提供するなど、円滑な開催に向けて運用を支援。また、復興支援の機運の高まりにより、開催が増加した大型コンサート等が継続して開催されるよう誘致活動を継続</li> <li>県内各地域の特性や資源を活かした誘客促進、外部人材の活用による取組みの深化、「道の駅」の先駆的な取組みの情報共有等の取組みを支援</li> <li>九州観光推進機構を中心に九州各県が連携し、海外でのプロモーション活動及び招請事業を行うとともに、東南アジア及び欧米豪に対して、現地メディア等を活用した情報発信やファムツアーを実施</li> <li>肥薩おれんじ鉄道は、沿線市町等と連携した観光列車等の活用や、台湾鉄路管理局との姉妹線提携による誘客促進を支援。天草エアラインでは、同型機保有の他の航空会社との協業体制構築や乗員の確保を進め、就航率を向上させる</li> </ul>